

令和4年度シラバス記載例

【記載例】

講義科目名称 (必須)	福祉サービス論
-------------	---------

1 小見出し	現代社会における福祉サービスの管理運営
2 授業計画	<p>第1回 福祉サービスにおける経営と組織</p> <p>第2回 福祉サービスに関わる組織や団体～法人の概念について</p> <p>第3回 福祉サービスに関わる組織や団体～社会福祉法人</p> <p>第4回 福祉サービスに関わる組織や団体～特定非営利活動法人・その他</p> <p>第5回 福祉サービスの組織と経営の基礎理論～経営戦略</p> <p>福祉サービスの経営戦略についてWeb検索し、収集した情報を分析評価し、整理してみる</p> <p>第6回 福祉サービスの組織と経営の基礎理論～事業計画・組織</p> <p>第7回 福祉サービスの組織と経営の基礎理論～管理運営の基礎理論</p> <p>第8回 福祉サービスの管理運営の方法・サービス管理～サービス評価</p> <p>第9回 福祉サービスの管理運営の方法・サービス管理～苦情対応とリスクマネジメント</p> <p>特別講師として、社会福祉法人〇〇〇から〇〇〇〇氏を招き、福祉サービスの運営方法と実態について講話をいただく</p> <p>第10回 福祉サービスの管理運営方法・サービス管理～サービスの方向性と管理</p> <p>サービス管理と運営方法の実態を直接学ぶため、社会福祉法人〇〇〇の施設を見学に行く</p> <p>第11回 福祉サービスの管理運営方法・サービス管理～人事管理と労務管理1</p> <p>第12回 福祉サービスの管理運営方法・サービス管理～人事管理と労務管理2</p> <p>グループに分かれ、前回の授業で与えられた課題について協働で取組、理解を深める</p> <p>第13回 福祉サービスの管理運営方法～会計管理と財務管理1</p> <p>第14回 福祉サービスの管理運営方法～会計管理と財務管理2</p> <p>前回のテーマについてグループディスカッションを行い、クリッカーと電子黒板を活用しながら発表し合い、理解を深める</p> <p>第15回 福祉サービスの管理運営方法～情報管理</p> <p>第16回 試験</p>
3 授業のねらい及び概要	<p>社会福祉基礎構造改革後、福祉サービス提供主体の多元化と準市場を通しての福祉サービスの調達ということから、福祉サービス提供主体は、人権を尊重した質の高いサービスの提供と競合の中の効率性を問われる経営の両立をめざすことが求められている。そこで、この授業では、〇〇県保健福祉部で30年間社会福祉に携わってきた様々な実務経験に基づき、現代社会における福祉サービスの提供のあり方と管理運営・経営の基本的な事項について、学修に活かした講義を行う。</p> <p>情報リテラシー[第5回]、フィールドワーク[第10回]、グループワーク[第12回]、対話・議論型授業・ICTの活用[第14回]</p>

シラバス執筆の留意事項

シラバス作成（入力）に関するガイドライン	
項目名	【制限全角文字数】
1 小見出し（必須）	【全角 1,333 文字以内、半角は 2,000 文字以内】
・授業内容が把握できるよう記入してください。	
2 授業計画（必須）	【回数欄：全角 10 文字、タイトル欄：全角 200 文字、内容欄：全角 1,333 文字以内】
(1) 授業計画の記入について	
・「3 授業のねらい及び概要」及び「4 到達目標」をふまえ、各回の授業内容が明らかになるように、第 1 回から第 15 回までの毎回の授業内容を具体的に記入してください。	
・複数回にわたって同じ内容を表記することはしないでください（演習①、演習②、演習③、演習④・・・など）。	
・学生が、各回の授業がどのように展開されるのかというイメージをつかみやすいようご配慮をお願いします。	
・授業計画は半期セメスターの 15 回の授業（「定期試験」は含めない）を前提に、各回の授業内容を明記してください。	
・第 1 回の授業を単に「ガイダンス」または「オリエンテーション」、第 15 回の授業を単に「まとめ」と記載しないようにしてください。	
・明確に各回の授業内容の区別ができない場合は、2～3 回をメドに内容をまとめて記載してください。その際にはできるだけ詳細に記載してください。	
・実習科目で学外実習（教育実習等）を伴う場合は、 <u>当該授業回数の欄を空欄とせず</u> に「〇〇教育実習」や「〇〇臨地実習」等と記載してください。	
・「学外における授業の実施」や「特別講師による授業の実施」計画がある場合には、そのことを記載してください。	
(2) 能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換について	
・学生に生涯学び続ける力を修得させるためには、主体的な学修の体験を重ねさせることが必要であり、学生の主体的な学修を促す質の高い教育を進めることが学士課程に求められています。	
※アクティブ・ラーニングの種別	
※シラバスへの種別の記載	

種 別	説 明
課題解決型学修 (テュートリアル型)	一つの課題に対して仮説をたて、相互に話し合い課題を解決していくことにより、様々な知識・スキルを学ばせる方法。
課題解決型学修 (実践体験型)	協定書等に基づく外部機関と連携した課題解決型学修で、課題を実社会の中に設定し、民間企業など実社会に入り込みながら、相互に話し合い課題を解決していくことにより、様々な知識・スキルを学ばせる方法。
実習・フィールドワーク	学内外のフィールドに赴き、調査や観察を通して情報収集を行わせる方法。学外施設等の見学を含む。
双方向アンケート	授業中に I C T機器のクリッカー、タブレット端末、あるいはコメントペーパー等を利用して、教員と学生による双方向的な対話を行わせる方法。
グループワーク	学生を少人数のグループに分け、与えられた課題に協同で取り組ませる方法。2人組によるペアワークも含む。
対話・議論型授業	授業中に特定のテーマについて対話又はディスカッションを通して理解を深める方法。特定のルール下で議論の勝敗を競うディベート方式も含む。
ロールプレイ	学生に特定の役割を与えて演じさせることを通じ、それぞれの立場の人等の考え方を体験的に学ばせる方法。
プレゼンテーション	学生がパワーポイント等を用いて発表資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行わせる方法。
模擬授業	教員養成科目等において、自ら授業計画を立てさせ、他の学生の前等で実際に授業の練習を行わせる方法。
反転授業	動画教材により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習を行わせる方法。
その他	その他、アクティブ・ラーニングの要素（協定書に基づく外部機関と連携した課題解決型学習、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク）を含むと考えられる方法。括弧書きで具体的な内容を記載する。

・学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が求められていることから、上記に示すアクティブ・ラーニングの要素を含む授業を行う場合には、「3 授業のねらい及び概要」欄に上記の種別を明記してください。授業回が特定できる場合には、適宜括弧書きで対応する授業回を記載してください。

【記載例 1】グループワーク、プレゼンテーション

【記載例 2】グループワーク〔第 3 回〕、プレゼンテーション〔第 1 4～1 5 回〕

(3) 情報リテラシー教育に関する授業について

・情報リテラシーとは、学生に対して行う情報活用能力を養成する教育（授業）であり、具体的には、情報モラルに関する教育や、課題解決のために必要な情報を検索するもの（図書館利用法・文献検索・データベース活用法等）、情報を分析評価し、整理するもの（情報整理法等）、情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）等を指します。該当する内容を授業で行う場合には「3 授業のねらい及び概要」欄に明記してください。

(4) I C Tを活用した双方向型授業について

・授業の質の向上を図るため、授業において、授業時間中にその場で学生の理解度を把握する技術（クリッカー、タブレット端末等）を活用した双方向型授業を実施する場合には「3 授業のねらい及び概要」欄に明記してください。

3 授業のねらい及び概要 (必須) 【全角 1,333 文字以内、半角は 2,000 文字以内】

(1) 授業のねらい及び概要の記載について

- ・授業のねらい、具体的に扱う内容などについて明記してください。教員の視点から授業科目の持つ意義を学生に理解しやすい表現で記入してください。
- ・「私たちはなぜこれを学ばなければならないのか?」という学生の問いに答え、学生の興味・関心を高め、学習意欲を喚起することを目指します。

(2) 「実務経験のある教員による授業科目」の配置に係る記載について

- ・当該科目が「実務経験のある教員による授業科目」である場合には、そのことが学生に分かるように、授業方法や内容、到達目標等とあわせて、シラバスに明記してください。
- ・実務経験を持つ先生には、どのような実務経験を持っていて、この授業にその経験をどのように活かして授業を行うのかをシラバスに記載してください。